

客船「飛鳥Ⅱ」 新型コロナウイルス感染症対応訓練の実施について

- 9月18日に国土交通省により公表されたクルーズ再開に向けたガイドライン等に基づき、本日21日に「飛鳥Ⅱ」と共同で「新型コロナウイルス感染症対応訓練」を実施しました。このことについて、飛鳥Ⅱの運航会社である郵船クルーズ株式会社も記者発表を行いましたので、合せてお知らせします。
- 今回の共同訓練は以下の内容で行いました。
 - 【情報伝達訓練】
船内でのクルーズの受入に関する関係者への情報伝達訓練を実施し、役割に応じたロールプレイを実施しました。
 - 【下船訓練】
港湾局、船会社が中心となり、感染者の下船から搬送までの動線等を確認しました。
- 横浜港では、今後も乗客はもちろん市民、港湾関係者等の皆さまの安全・安心を第一に、国・県等の関係機関、船会社等と連携しながらクルーズの再開に向けて準備を進めていきます。



【下船・搬送訓練の様子】

写真データの利用を希望される場合は、当課 (kw-kyakusen@city.yokohama.jp) までご連絡ください。

お問合せ先	
横浜市港湾局客船事業推進課長	岸本 弘之 Tel 045-671-7237

客船「飛鳥Ⅱ」新型コロナウイルス感染症対応訓練の実施 ～「安全・安心」なクルーズを目指して～

郵船クルーズ株式会社(本社:横浜市西区、代表取締役社長:坂本 深)は、同社が運航する日本船籍最大のクルーズ客船「飛鳥Ⅱ」(50,444トン)における、新型コロナウイルス感染症対応訓練を、(一財)日本海事協会、横浜市、神戸市及び日本郵船株式会社と共同で実施いたしました。

訓練は、2020年10月21日に「横浜・神戸トライアルクルーズ(10月19日発2泊3日、乗客約150名で実施)」中の乗船客に体調不良者が発生し、船上での検査の結果、陽性と判明した事を想定し行いました。

「飛鳥Ⅱ」からの感染者発生の一報と同時に、本社内に対策本部を立ち上げ、乗船客の安全を最優先に下船港である横浜港と連携し対応にあたりました。

訓練は、「飛鳥Ⅱ新型コロナウイルス感染症対策プラン」を基に作成された、マニュアルに則り行われ、感染者及び濃厚接触の疑いがある方の隔離、それ以外のお客様の客室待機依頼及び誘導、各施設の消毒によるグリーンゾーンの確立、イエローゾーンの設置、隔離エリアの陰圧化に加え、客室待機中の乗船客へ昼食を弁当形式でお届けするオペレーションも行いました。

横浜港・大さん橋ふ頭及び、前日10月20日神戸港・ポートターミナル着岸後は、感染者の搬送手順を横浜市及び神戸市とともに確認しながら実施いたしました。

今回の訓練では、クルーズ再開にあたり感染者発生時の船内でのオペレーション確立の他、当局や自治体をはじめとする関係機関との連携の重要性を確認いたしました。

当社は、今後も感染症を含めた事故対応訓練を積極的に実施し、安全で安心なクルーズ運航を目指していく所存です。



医師の往診



調理場の消毒作業



廊下の消毒作業

飛鳥Ⅱ 概要 www.asukacruise.co.jp

「飛鳥Ⅱ」は日本船籍最大の客船で、約100日間の世界一周クルーズ、アジア・オセアニア方面へのロングクルーズ、日本の夏祭りを巡るクルーズ、1泊からのショートクルーズなど多岐にわたり展開。全室海側の客室、ゆったりとしたスペースや充実の設備、日本人乗船客の嗜好に合わせた多彩な食事やエンターテインメントが特徴。乗船客1人当たりのスペースや乗組員比率は、日本はもとより世界トップレベルで、世界のクルーズマーケットで愛される美しい船体に、和の心のおもてなしをのせて皆様をお迎えいたします。

船籍:日本 船籍港(母港):横浜港 総トン数:50,444トン 全長:241m 乗客数:872名 乗組員数:約490名 客室数:436室(全室海側)

《本リリースに関するお問合せ先》 郵船クルーズ株式会社

広報チーム : 歳森・住田・大内・山口

TEL:045-640-5226 FAX:045-640-5366 Mail: pr@nykc.jp (土日祝休業)

